

## 第54回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

母のようになりたい

佐賀県 佐賀県立致遠館中学校 三学年

古川 詩織

私の母は働き者です。毎日、朝早くに起きて朝食をつくり、洗濯物を干し、風呂を掃除して、いつも決まった時間に家を出ます。そんな母は、私の心と体の支えであり、私の将来になりたい人でもあります。普段は恥ずかしくて言えなけれど、きっと母はそれを感じてくれていると思います。

でも母は、頑張りすぎる所も多く、無理をしてきつそうに家事をしている姿を見ると、私はすぐに母を手伝います。その場しのぎにはなるかもしれませんが、もし、それが続いたら……。もし、大変な病気だったとしたら……。私にできることはありません。看病する知識なんてないし、自分でお金をかせぐこともできないから、力になれません。そんな私に代わって、母を助けてくれるのが、生命保険です。

私は今まで、生命保険は病気にかかってしまった時に、お金を払ってくれるものというくらいだと思っていました。でも、思っていた以上に保険は複雑で、種類もたくさんあって、保険の種類によって保障の内容が違ふところには驚きました。

今、母はいくつかの保険に入っているそうです。いざというときのために用心しておくのは大切なことだと思います。生命保険は、自分達の力ではどうすることもできない金銭的な面を保障してくれる、いいサービスだということが分かりました。

全国の約九割の人が加入しているという、生命保険。つまり、自分が助けてもらったら、今度は自分が助ける、自分が助けてあげたら、今度はいざというときに助けてもらうという「助ける・助けられる」の関係が、今あちこちにあるということです。母は、

「保険は支え合い。助け、助けられ、という関係があるから、成り立っている。」と言っていました。保険料として払っているお金は、将来の自分に返ってくるかもしれないし、誰か他の人のところへ行ってしまふかもしれません。でも、必ず誰かの役に立っているんだと思うと、保険のシステムはとてもいいと思います。

そして将来、私は自分で保険に入りたいです。今はまだ、お金をかせぐことができないので、両親のお金で保険に入っています。ですが、自分で働いてお金を手にできるようになったら、自分のお金で保険に入りたいです。母のよ

## 第54回中学生作文コンクール

うに、家事、仕事、子育てを欠かすことなくするためには、生命保険に加入することが大切なんだと気づきました。そうすれば、いざというときに役に立つし、仕事も頑張れるはずです。

生命保険は、もしものときのためのもの。必ずしも必要になるものではありません。でも、母の話を通して、生命保険のよさを知りました。保険は、将来何かに困ったときに自分を助けてくれる存在であり、母のように何でも頑張ることのできる人へと導いてくれる、大事な架橋です。